



マルホンの

HOTで

すまいる

第18号

## 巻頭特集 被災地への医療支援レポート



美原記念病院  
循環器部長  
江熊広海先生

東日本大震災から3年  
が経とうとしています。  
今回は震災後の医療支  
援で被災地へ赴かれた美  
原記念病院の循環器部  
長 江熊先生にお話を  
伺いすることができまし  
たのでご紹介致します。

—どういった支援内容だったのでしょうか？

「2011年の6月20日から23日まで、江熊、  
看護師、リハビリテーションスタッフ、事務の  
4人で被災地で医療支援を行いました。  
支援内容は、気仙沼市の市立本吉病院での  
外来診療でした。本吉病院は津波の被害で  
1階部分が破壊され、2名いた常勤医が退  
職してしまい、常勤医なしの病院になってい  
ました。外来診療については、他の地域から  
の応援もあり、主に内科全般の外来診療を担  
当しました。」

—不足している資材などはありましたか？

「震災後、少し時間が経っていたこともあり、  
この頃になるとエコー等の医療機器、注  
射器や手袋・生理食塩水等の医療材料など  
は全国からの支援が届いていました。群  
馬からも支援に向かう際に持参しましたし、



被災地支援チーム(気仙沼市にて)



先生が勤務されている美原記念病院様(伊勢崎市)

診療に必要な資材が不足するようなことは  
ありませんでした。また個々の患者様につ  
いては共有の診療記録があり、投薬状況な  
どの情報は問題なく共有されていました。」

—病院外の様子はいかがでしたか？

「この頃は、ガソリン、水など日常生活に必  
要なものは被災地でも問題なく手に入れる  
ことができました。ただ瓦礫の撤去は進ま  
ず、避難所に多くの人が生活せざるを得ない  
状況が続いていました。支援にきていた自  
衛隊も同じホテルに宿泊していたようで、復  
興途中であることを認識させられました。」

—医療支援を終えた感想は？

「実際の診療に当たった病院(本吉病  
院)がこの後どうなるのか、また全国からの  
応援の医師で診察をしている状況が、この  
先も続くのかが気になりました。」

インタビューを終えて

震災から3か月が経って、医療・日常生  
活の必要なものなどはほとんど揃ってき  
ても、医師の不足や津波で住む場所を  
失った方々のフォローなど、すぐには解決で  
きない問題がまだ多く残されていると改め  
て考えさせられました。

(本吉病院にはその後、常勤の先生が見つ  
かり、震災2年後の2013年3月から入院  
患者の受け入れを再開したそうです。)



いきいき

# HOTさん

群馬県前橋市

田子 尚志 (57)  
さん



私はCOPD(慢性閉塞性肺疾患)と診断され、50代半ばでHOT(在宅酸素療法)を導入するようになりました。HOTを始めたのは3年前で、病気の原因としてタバコだと思います。仕事のストレスによって少しずつ本数が増え、1日30本を25年間吸い続けました。その結果何度か路上で倒れてしまい、救急車で7~8回運ばれました。その際失禁・嘔吐、目の前が暗くなるなど怖い思いをしています。いくつかの病院に行って調べましたが原因がわからず、最終的に病院の血ガス分析検査によって基準値が低く低酸素脳症といわれHOTを始めました。初めの頃は子供に笑われて、酸素吸入をするのが嫌でした。しかし、先生に「酸素を吸わないと死んでしまうよ」といわれ素直に受け入れました。

酸素を吸い始め、人生が終わった気分で死んだほうがいいとも思い、家で寝てばかりでした。その時に友人の紹介で絵を始めたところ、楽しい気分になり次第に外に出るようになりました。現在は、慣れてきたので落ち着いてきましたが慣れるまで2~3年かかりました。



自画像



お散歩をしながら詩や絵の題材を探します

最近では肺動脈血栓塞栓症という病気になり、カテーテル手術を何回か受けて以前よりも回復しています。去年のサチュレーション(動脈血酸素飽和度)が酸素3.0L/分で96~97%だったのが、今年は2.0L/分で98%になったので少し回復しています。

COPDになってから大きな病気にかかってみると酸素を吸うことは小さなことだと気づきました。機械が大きいだけで耳の悪い人が補聴器を付けたり、歯の悪い人が入れ歯をするのと同じことだと思っています。私は酸素を吸うことをあまり悩まず簡単に考えたほうが良いと思います。

趣味は、絵手紙と小説のようなものを書くことです。また、天気の良い日は外に出かけて太陽の光を浴びたり、絵の題材を探したりしています。7~8分で絵手紙が描けるので家には何枚もあります。大きい絵は2時間~3日かかり、ものによっては1週間かけて描くこともあります。

去年風邪から肺炎になったのでうがい、マスクをして体調管理に気をつけ、これからも明るくマイペースに生きていきたいです。



# マルちゃん ギャラリー



「ねこ(ペア)」

大谷さんは92歳。  
20年前にパッチワークを  
始め、今でも毎月2回  
パッチワーク教室に通っ  
ていらっしゃるそうです。



「お正月の  
縁起物」



「うさぎのひなまつり」

前橋市 大谷 うらさんの作品 (HOT歴18年6ヵ月)



福島取締役部長

私たちは愛知県名古屋  
市に本社をおき、  
東海3県を中心に、医  
療ガス販売、在宅酸素  
療法、医療ガス設備の  
施工等を中心に事業  
展開し、経営理念とし  
て「当たり前の事を当  
たり前に」を掲げてい  
る創業50年の企業です。

(株)マルホン様とは大変、仲良くさせて頂き、在宅酸素のサービス向上のため、切磋琢磨しながら色々な勉強をさせて頂いています。

東日本大震災以降は、幾度か岩手県などを中心に訪問し、私たちに何ができるのか、私たちの対策として何をしなければなら



↓災害用  
充填設備

↑災害時には屋外でも  
充填できる設備

日頃から災害への備えを怠りません



HOTの仲間たち



愛知県名古屋市  
株式会社エバ

らないのかを学ぶため、まず現地現場で起こった現実を目と気持ちで受け止めることから始め、我々の災害対策や日常対応の見直しを行いました。

この写真は我々の保有する無線、衛星電話や救命救護講習会風景、災害マニュアル、震災後に増設した災害・停電時に屋外



で患者様に提供する医療用酸素を充填できる設備です。

皆様におかれましては、まだまだ、寒い時期が続きますがお体を大切にお過ごし下さいませ。



株式会社エバさんプロフィール  
愛知県名古屋市天白区古川町46番地  
TEL. 052-891-1200 FAX. 052-891-1201  
設 立 昭和39年



## 火気の取り扱いについて

酸素吸入中の火災による事故が毎年発生しています。去年は4件の死亡事故があり、年末の12月20日に厚生労働省から報道発表がありました。

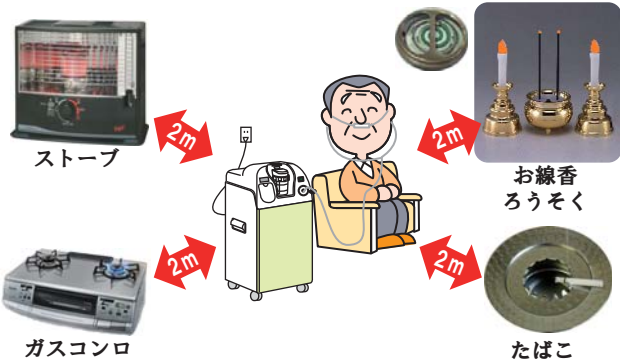
酸素には、燃焼を助ける性質があります(支燃性といいます)。

**酸素吸入中は周囲2m以内で火気を使用しないでください。**

酸素濃縮器等は適切に使用していただければ安全な機械なので、怖がらず主治医の先生の指示どおりに酸素を吸入していただくようお願いいたします。皆さまが火気に注意し、安全に療養していただくことをお祈り申し上げます。

■■■ 酸素吸入中は火気から**2m以上離れてください。** ■■■

やむを得ず火気に近づくときは、一旦酸素を止め、カニューラを外してからにしましょう



Vol. 18

頑張ってます！

## HOTな社員

太田医療営業所の田中雅人と申します。群馬県桐生市出身です。趣味はゴルフです。ゴルフと言っても打ちっぱなし専門です。私ごとではありますが、昨年7月に第一子長女が誕生しました。娘の目が私の細い目にそっくりで、何から何まで愛おしくてたまりません。休日は愛娘との散歩とオムツ交換が日課になっています。



たなか まさと  
田中 雅人

血液型 A型

好きな食べ物 ハンバーグ

嫌いな食べ物 グリーンピース

欲しいモノ 車の中で使えるメリー

人形がくるくる回るおもちゃが大好きです

私がマルホンに入社して15年が経ちました。担当エリアは栃木県南部です。普段の業務内容は営業を主に機器の保守点検、酸素ボンベの配送等を行っています。日々、在宅医療が進化していくなか、順応できるよう知識習得に努め、これからも皆様に安心をお届けできるようお力になればと思います。よろしくお願い致します。

## 編集後記

■1月になってから仕事が変わりました。環境が変わり、体調を崩してしまいました。うがいや手洗い・マスクをするなど皆様も体調を崩さないようにしてください。まだ慣れていない仕事なので、とても大変ですが頑張りたいと思います。(えのき)

■寒さに負けず体調を崩さないようお体に気をつけてお過ごし下さい。幸せいっぱい的一年でありますように。(いたがき)

■毎日寒い日が続き体調を崩しやすい季節になりました。皆様、暖かくしてお体にお気を付けてお過ごし下さい。(いしぜき)

■1月から担当が変わり、新しい担当者が訪問している方もいらっしゃると思いますが、ご不便をおかけしないよう気を付けて参ります。(オ力)

■名古屋のエバさんはこの業界で常に先進的な取り組みをされています。私たちも情報交換等を通して皆様に還元したいと思っています。(すずき)

第18号

株式会社マルホン「HOTですまいる」編集委員会 発行責任者:鈴木武  
2014年2月1日発行 前橋市問屋町2-16-11 TEL. 027-210-7222